



ブナセンターだより 2月号

発行：ブナセンター No.356 2023, 2, 1

今月のごあんない

新型コロナウイルス感染症対策

- ◎参加の際は、検温、マスクの着用をお願いします
- ◎感染状況によっては中止や、内容等を変更する場合があります

わくわく土曜日ランド 「しりすべり！ざんまい」

ブナセンター周辺の雪の森を探検します。地形を見ながら、帰り道は尻滑りのコースを自分たちで開拓してみましょう。

【日程】2月 4日(土)

【時間】13:00~16:00

【集合】ブナセンター(12:55)

または町民センター(12:45)

【定員】15名(町内小学生対象)

【持ち物】野外で活動できる服装、長靴、着替え一式、手袋と靴下の替え、温かい飲み物、タオル

【参加費】300円

【申込み】前日17:00までにブナセンターへ

注意！
いつもと時間がちがいます



森へ行こう

「黒松内・新No.2の ブナを見に行こう」

昨年3月に新たに発見された、胸高直径が町内で2番目に太い大ブナを見に行きます。ブナだけでなくハルニシの大木にも出会えます。

【日程】2月12日(日)

【時間】9:30~12:30

【集合】町民センター(9:20)

【定員】15名(大人~中学生)

【参加費】300円 ※ブナさぼメンバーは無料

【持ち物】野外で活動できる服装(寒暖の調節がきくもの)、手袋等の替え、飲み物、軽食、リュック、あればスノーシュー

【申込み】前日17:00までにブナセンターへ

- ※コースにはややきついアップダウンもあります。
- ※小学生の場合、雪山歩きの経験があり、保護者同伴であれば参加可能です。
- ※スノーシューやかんじきでの山歩きが初めての方は要相談。

歩く時間は
3時間ほど
(距離4km)



かんじき
貸し出します

予告

企画展 黒松内の樹木part3 黒松内の森と 人々の暮らし

黒松内の樹木について様々な角度から紹介してきた企画展のしめくくりは、「黒松内の人々が、森とどのようにつきあってきたのか」をテーマにします。

期間 3月30日(木)~5月末(予定)
場所 ブナホール

展示を見ながら解くワークシートなどに挑戦すると、ブナセンターオリジナル「樹木のキャラクターカード」をプレゼント。



《 工房からのお知らせ 》

陶芸教室 毎週木曜日 昼の部 13:30~15:30
夜の部 18:30~20:30

※ブナセンタースタッフが指導しています。
※初めて参加される方は前日までにご連絡ください。

木工教室 毎週木曜日 18:30~20:30

※教室の時間帯を無料開放しています。
※グリーンウッドワーク(生木からスプーンやへらを作る)用の「削り馬」と削る道具も貸し出しています。

黒松内生物多様性保全奨励事業 成果発表会のお知らせ

黒松内町が助成している「生物多様性に関わる研究」の成果発表会を、下記の日程で開催いたします。

3月5日(土) 時間:15:00~17:30
場所:町民センター 大ホール

※詳細はチラシにて

◆2022年度ブナセンター賞◆

天池庸介氏(北海道大学大学院・研究員)



「黒松内低地帯の哺乳類相とその遺伝的多様性」



★2020年度受賞者 上木 岳氏(信州大学大学院)
「クワガタムシ類と共生微生物からひもとく北限のブナ林の共進化プロセス」

報告

ブナセンター講座

ヒグマと生きる

PART2



よしざわ まや
吉澤 茉耶さん

公益財団法人
知床財団

黒松内ぶなの森自然学校
に勤務後、島牧村の島牧
ユースホステルを経営。
現在は知床でヒグマ対策
に取り組んでいる。

まとめ

去る2022年12月3日、ヒグマのことを学ぶ連続講座「ヒグマと生きる②」が開催されました。前回(2022年3月開催)は「ヒグマの生態」について学びました。2回目となる今回は、長年ヒグマの調査研究に従事し、ヒグマ対策の最前線で活動する2人の専門家をお招きして、「ヒグマとの軋轢を生まないためにできること」をテーマにお話していただきました。中身の濃い講座で、すべてを報告するには紙面が足りませんが、そのなかの一部を抜粋してご紹介します。

※講座の詳しい記録もありますので
ご覧になりたい方は、ブナセンター
までお問合せください。

ヒグマとの付き合いを考える上で重要なポイントは2つあります。

①雑食性であること

肉食の傾向が強そう、というイメージがありますが、実際には植物類の方がメイン。大きな体を維持するためにその時最も手に入りやすいもの(春だったらフキ等)を食べます。一度覚えただ味の執着する性質があります。

②学習能力が高いこと

嗅覚がひじょうに発達し、生ゴミや農・魚業の廃棄物といったニオイの強いものにひきつけられやすいです。行動の特徴として、人の食べ物の味を覚えてしまうと、はじめは慎重だった行動が一気にエスカレートするとされています。

左記の2点をふまえて、ヒグマとの軋轢を防ぐには、

①ヒグマをひきつけるものをなくす努力

たとえば札幌市では、耕作放棄地の放棄果物を取り除く取り組みなどが行われています。地域住民の自覚(ゴミの扱い等)も重要です。

②人を見たらサッと逃げるヒグマを増やす

近年、ハンターの激減、人と自然の関わり方の変化によって、人を恐れぬヒグマが多くなってきています。



わせだ こういち
早稲田 宏一さん

EnVision
環境保全事務所

ヒグマ、エゾシカの調査研究や被害対策の業務に従事。狩猟者としても活動し、野生生物との共生にむけた普及啓発に取り組んでいる。



オスのヒグマの毛皮に触れ、その大きさに驚く講座参加者。

ヒグマ対策の先進地と言われている知床での取組について紹介します。

知床で起こることはやがて全道へ

北海道では1990年頃まで「春グマ駆除」が行われており、全道的にヒグマの生息数が減った時代がありました。知床では国立公園内での駆除をしない施策をとったため、ヒグマの減少が抑えられ、他の地域より早くにヒグマとの軋轢が顕在化してきています。「知床」で起きている問題は、20年後には北海道全域で起こる」とも言われています。

ヒグマを変えるより「人間を変える」

財団ではかつて、「ヒグマの行動を変える」取組に重点を置いてきました。しかし、2019年頃より「人間の行動を変え

る」ことにシフトチェンジ。多くの観光客が訪れる知床五湖では、ヒグマのリスクや植生保護に応じたゾーニングを実施しています。

今回一番言いたいこと

大事なことは、問題行動を起こすヒグマを生み出さないことです。そのためには地域住民の「ヒグマと隣り合わせて暮らしている」という自覚がキーになります。

地域ごとに実情はかなり異なるので、それぞれに調査研究が必要です。

最後にお断りしたいのは、今回話した内容は決してどの地域でも当てはまる「正解」ではないということです。知床でも試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

- ・むやみに「恐れる」のではなく、正しい情報を知り、正しく「畏れる」こと。
- ・ヒグマは人間と同じように個体差が大きい動物。それぞれの個性を見極めること。
- ・黒松内には「黒松内のヒグマ」との付き合い方があるはず。「知って」「考えて」、そして「自分たちで選択する」ことが大切。

【2月の休館日】

6・7日 / 13・14日 / 20・21日 / 27・28日
(ブナセンターは通常毎週月曜日と火曜日が休館日です)

- 「ブナセンターだより」はブナセンターHPからPDFファイルをダウンロードできます。
- 「ブナセンターだより」郵送ご希望のかたは、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、希望回数分の84円切手を同封してブナセンターまでお送りください。

発行所：黒松内町ブナセンター

〒048-0101 寿都郡黒松内町字黒松内 512-1 TEL (0136)72-4411 FAX (0136)72-4440

メール bunacent@host.or.jp HP <http://bunacent.host.jp/> fb <https://facebook.com/kuromatsunai.bunacent>